

第1回 大和御所道路（橿原北IC～橿原高田IC）植栽検討委員会
議事概要

1 日 時 令和3年1月28日（木） 10:00～12:00

2 場 所 奈良国道事務所 4階会議室

3 出席者

委員長	京都女子大学 宗教・文化研究所 客員研究員	榎村 久子
	ヴィジュアルデザイナー	岩井 珠恵
	奈良県立大学 教授	井原 縁
	奈良県 県土マネジメント部 道路建設課 課長	岡部 共成
	奈良県 水循環・森林・景観環境部 環境政策課 課長	大東 宏幸
	橿原市 まちづくり部 部長	近藤 浩明
	近畿地方整備局 奈良国道事務所 副所長	青山 淳

4 議 事

1) 委員会規約について

・了承されました。

2) 委員長の選任について

・榎村久子委員が選任されました。

3) 資料1_大和御所道路（橿原北IC～橿原高田IC）の概要、資料2_橿原バイパス植栽の経緯と現状について

- ・今後の植栽整備においては、これまでに沿道住民等から聞いている現況植栽の問題点、交通安全や維持管理に係る問題点等を改善する必要がある。
- ・今後の検討に際しては、検討対象区間全体の現在の植栽帯の幅、樹種、樹高、状態等を十分に把握する必要がある。
- ・橿原バイパス周辺の土地利用の変遷を見ると、この60年で非常に市街化が進んでいる。道路植栽は、まちの景観を構成する重要な役割を担っていたが、市街化が進み、遠方からの視認性が低下する現状において、道路植栽の担う景観的な役割が変わってきている。今後の植栽整備においては、道路植栽が担う新たな役割を考えていく必要がある。

4) 資料3_工事による現況植栽への影響と植栽エリア(イメージ)について

- ・植栽基盤が確保できないため植栽可能な樹種が限定される等の制約条件が多いことも事実であるため、そうした情報を正確に伝え、厳しい条件の中で可能な限り検討することを示す必要がある。
- ・今後の植栽整備においては、快適性、景観、安全に加えて、生態系サービスの観点についても検討することが重要である。

- ・現況植栽が整備された当時に重要視された観点と今後重要視すべき観点は変わってくる。長期的に考えると、水素自動車や電気自動車等の普及により、騒音や排気ガスの問題も変わってくる。新しい時代に入り、道路のあり方も変化する中、先を見据えた議論が必要である。
- ・奈良県では、“「なら四季彩の庭」づくり”という植栽計画を策定しているが、策定した背景に樹勢の衰えや不十分な維持管理等の問題があった。維持管理に係る人手や予算が限られているが、今後の植栽整備においては維持管理の視点も配慮すべきである。
- ・今後の植栽整備によって現況植栽が有する目隠し効果や遮音効果が失われるのであれば、近隣住民にとって現在より環境が悪化しないよう、ハード対策も含めて検討して欲しい。
- ・現況植栽は、樹木とともに成長する沿線小学校の児童らが植栽したという植栽プロセスも先駆的であり、すばらしいものであった。そのため、この植栽帯と小学校とのつながりは、今後も継承して欲しい。

5) 資料 4_植栽検討委員会の進め方（案）と今後のスケジュール（案）について

- ・今後の植栽整備においては、過去、現在、将来を見据えた検討が必要である。
- ・沿道住民は、現況植栽に対して様々な思いを持っているため、丁寧な対応をして欲しい。
- ・現況植栽は、沿道住民の参画により整備されたものであるため、撤去の際には、沿道住民の思いにも配慮して欲しい。

以上